

【事務情報科】 2年次 【必修】 科目「ビジネス情報」授業のシラバス

1 概要

教科名	商業	科目名	ビジネス情報	単位数(コマ数)	2(156)
科目の目標	情報通信ネットワークの導入やソフトウェアの活用に関する知識と技術を習得させ、情報を効率的に処理することの重要性について理解させるとともに、ビジネスの諸活動においてコンピュータを適切に運用する能力と態度を育てる。				
教科書(出版社)	ビジネス情報 新訂版(実教出版)		副教材(出版社)	平成31年度版 全商情報処理検定模擬試験問題集 ビジネス情報2級(実教出版) 学習と検定 Excel で学ぶ全商情報処理検定テキスト ビジネス情報部門 1級 三訂版(実教出版)	

2 学習の方法

(1) 予習について

教科担当の先生の指示に従ってください。

(2) 授業について

毎時間の授業を大切に集中して取り組んでください。疑問点は遠慮なく質問してください。

教科担当の先生の指示に従い、授業で使用するものを確認してください。もし忘れた場合は、授業が始まる前に教科担当の先生に申し出てください。この授業で使用するファイルは「プラスチックの青」です。

(3) 復習について

学習した内容に関する用語やしきみなどは、練習問題や模擬問題を解くことで確認をしてください。

確認テストや小テストの結果は積み重なり、評価の材料の一部となります。しっかりと対策学習をしてください。

〈学習アドバイス〉

とにかく復習あるのみ。復習を万全にして得意科目にしてください。毎時の積み重ねが結果につながりますので、日々の授業を大切にに取り組んでください。

3 評価について

(1) 評価の観点

観 点	趣 旨
① 関心・意欲・態度	ビジネスの諸活動において、情報を主体的、積極的に活用し、将来、職場における情報活用のリーダーとなる意欲と態度を持っている。
② 思考・判断・表現	適切な手段を用いて情報を収集・処理したり、要求に応じた適切なシステムを開発するなどの思考力・判断力・表現力を身につけている。
③ 技能	ビジネスにおける情報活用に必要な、情報の分析手法、システムの開発、ネットワークの構築などの技能を身につけている。
④ 知識・理解	ビジネスの諸活動に関する情報の意義や役割を理解するとともに、ビジネスにおける情報活用を実践するために必要な知識を身につけている。

(2) 評価の方法(以下観点①～④は「(1) 評価の観点」と対応する)

評価材料		定期考査・確認テスト		授業態度	小テスト	ノート プリント	課題
観 点	割合						
① 関心・意欲・態度	10%	△	その分野が日常生活にどのように活かされているかを問うことがあります。	○		○	○
② 思考・判断・表現	25%	◎	ビジネスにおける情報活用について、システム開発やネットワーク構築の実際をふまえて考察し、的確に表現できるか。		○	○	
③ 技能	40%	◎	全商情報処理検定2級レベル		○	○	
④ 知識・理解	25%	◎	全商情報処理検定2級レベル		○	○	

〈担当者からのメッセージ〉

●全商情報処理検定ビジネス情報部門2級取得を目指します。授業をしっかりと受けてください。家庭学習の習慣をつくりましょう。

【事務情報科】 2年次 【必修】 科目「ビジネス情報」授業のシラバス

4 授業計画

月	単元	時数	学習内容	観点別評価	到達目標	考查等
前期						
4	1 ビジネスと情報 第1節 情報化社会とビジネス	12	ビジネスと情報システム／業務の改善と情報システム／個人の業務とICT	①	ビジネスにおける情報の活用に興味を持ち、様々な情報処理システムの意義や役割について自分から進んで学ぶことができる。／ネットワーク社会における新しいビジネス形態の進展やその課題について主体的に学ぶことができる。	
5	第2節 ネットワークとビジネス	16	インターネットを利用したビジネス／ネットワーク社会におけるビジネスの課題	②	コンピュータシステムを用いた、業務の効率化や業務の支援活用について考える、適切な判断ができる。／ネットワーク社会における新しいビジネス形態の進展やその課題について主体的に考え、判断し表現できる。	
6	2 情報通信ネットワークの活用 第1節 ネットワークの基礎	12	ネットワークの構成とハードウェア／ネットワークの利用とソフトウェア	④	ビジネスと情報の関連および、基幹業務システムに関する基本的な知識を身につけている。／企業において利用されているPOS・CRM・SFA・SCM・ERPなどの業務システムを学び、ビジネスにおける情報活用の基本的な知識を身につけている。／ネットワーク社会の進展に伴う新しいビジネスの実態やその課題を理解している。	前期中間考查
7	第2節 ネットワークの構築と管理	16	ネットワークの構築手順／ネットワークの設定手順	①	ネットワークの構築について関心を持ち、ネットワーク構築に必要なハードウェアやソフトウェアについての学習や実習に積極的に取り組むことができる。／ネットワークの管理やデータの保護、セキュリティ管理について関心を持ち、自分から進んで知識や技術を身につけることができる。	
8	第3節 サーバ管理	8	アクセス管理／ファイルサーバの管理／認証サーバの管理	②	ネットワーク構築に必要なハードウェアやソフトウェアを適切に選択できる。／ネットワークの特性や課題を理解し、適切な判断に基づくデータの保護やセキュリティ管理の基準が整理できる。／ネットワークを設定するためのネットワークアドレスやホストアドレスを理解し、適切なネットワークの構築を判断できる。	
9	第4節 セキュリティ管理	12	ファイアウォールやサーバによるデータ保護／セキュリティポリシーの管理／データの保護	③	簡単なネットワークを構築するための機器の設定などの技術を身につけている。／サーバを利用した、簡単なファイルの共有管理、データの保護、セキュリティの管理などができる。／ネットワークを構築するために有線・無線LANの接続設定、ネットワークアドレスやホストアドレスの設定ができる。	
10	3 表計算ソフトの活用 第1節 集計処理	12	複数シートを利用／グループ集計／クロス集計	④	ネットワークの構成、必要なハードウェア、ソフトウェアとその設定など、ネットワークの構築に必要な基本的な知識を身につけている。／ネットワークの構築についての基礎的な知識から、構築に必要なネットワークの設定方法、サーバの管理やセキュリティ管理の知識を理解している。セキュリティポリシー策定の知識を身につけている。	夏季休業明け確認テスト
11	第2節 オペレーションズリサーチの基礎	12	オペレーションズリサーチの様々な分析手法を活用して分析結果を表現できる。／財務情報や販売情報の分析結果から企業の財政状態や経営成績、販売成績などを判断することができる。／表計算ソフトウェアを活用して、効率的な分析結果を適切に表現できる。	①	オペレーションズリサーチについて関心を持ち、表計算ソフトウェアの機能を利用して分析実習に積極的に取り組むことができる。／財務情報や販売情報の分析と活用を通して、ビジネスに関する情報を自分から進んで分析することができる。	前期期末考查
12	第3節 ビジネス計算	12	オペレーションズリサーチ／シミュレーションと線形計画法／待ち行列／販売管理	②	オペレーションズリサーチの手法、シミュレーションや線形計画については、ゴールシーク、ソルバーなどの機能を活用しながら、待ち行列や回帰分析の技法を交えて、与えられた条件下における最適な解を導き出すことができる。／表計算ソフトウェアの「マクロの記録」の機能を利用して、処理を自動化することができる。	全商情報処理検定
13	第4節 手続きの自動化	20	手続きの記録と実行／メニューの作成／相対参照で記録	③	オペレーションズリサーチの手法、シミュレーションや線形計画については、ゴールシーク、ソルバーなどの機能を活用しながら、待ち行列や回帰分析の技法を交えて、与えられた条件下における最適な解を導き出すことができる。／表計算ソフトウェアの「マクロの記録」の機能を利用して、処理を自動化することができる。	
14	4 データベースソフトウェアの活用 第1節 ビジネス情報とデータベース	20	データベースの活用例／データベースの特徴／表計算ソフトとデータベースの違い／リレーションアルデータベースの概要	④	様々な分析手法や活用方法を理解している。／グラフを用いたデータの分析方法を理解している。／マクロの記録機能を用いた手続きの自動化の考え方や方法を理解している。／財務情報や販売情報の分析手法、及び分析結果の活用に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。	
15	第2節 データベースの利用	12	データベースの作成／データの検索／フォームへの表示／レポートの出力／マクロの作成	①	データベースの活用に関心を持ち、ビジネスにおけるデータベースの活用方法について、自分から進んで考えることができる。／データベースの作成に関心を持ち、その学習や実習に自分から進んで取り組み知識・技術を身につけようとしている。	
16	第3節 SQLの操作	12	SQLの基本操作	②	業務の特性を判断し、データベースの効果的な活用方法を考え判断することができる。／作成過程におけるエラーの処理や、作成したデータベースをより使いやすくするための修正などについて、自らの判断で正しい設計ができる。／処理の内容により、マクロ機能やSQLを適切に使い分ける判断ができる。	後期中間考查
17	5 ソフトウェアを活用したシステム開発 第1節 システム開発の基礎	8	システム開発の概要／ソフトウェア開発モデル／ソフトウェアの開発手法	③	データベースソフトウェアを活用してデータベースのテーブル、クエリ、フォーム、レポートを作成することができる。／自ら工夫して、目的に応じたデータベースの設計や作成を行うことができる。／データベースソフトウェアの処理の自動化ができる。画像などのオブジェクトデータを扱うことができる。SQLによるデータベースの操作ができる。	
18	第2節 アルゴリズムの基礎	12	流れ図とデータ／アルゴリズムの基本設計／応用的なアルゴリズム	④	データベースの役割、しくみ、整合性の概念やリレーションシップの意味が説明できる。／テーブル、クエリ、フォーム、レポートの役割と関連を理解している。／SQLの文法を理解している。	
19	第3節 表計算ソフトウェアによる開発	8	プログラミング機能の利用／ユーザフォームの利用／システムの作成	①	情報処理システムの開発に興味を持ち、その設計や作成の方法を積極的に学ぶことができる。／ソフトウェアを用いた開発の一連の工程に関心を持ち、ソフトウェアの特色を生かした実習に積極的に取り組むことができる。／アルゴリズムに興味を持ち、自ら進んで様々な処理を学ぶことができる。／マクロの学習に興味を持ち、自ら進んで様々な処理を学ぶことができる。	全商情報処理検定
20	第4節 データベースソフトウェアによる開発	8	データベースの設計／データベースのシステム設計／システムの作成	②	情報処理システムの開発の手順や開発モデルを理解し、各手順の目的や開発の内容を適切に説明できる。／設計書の作成やユーザインタフェースの設計などにおいて、利用者の立場に立ってわかりやすい設計や表現をしようとする工夫ができる。／システムの構成を理解し、適切なソフトウェアを選択することができる。／データ処理の目的に応じたマクロを自ら考え、作成することができる。／作成中のマクロのデバッグやテストなどを、自らの判断で正しく行うことができる。	後期期末考查
21		計156				

※ 観点別評価①は関心・意欲・態度、②は思考・判断・表現、③は技能、④は知識・理解を表しています。

※ 授業計画は進度により前後することがあります。